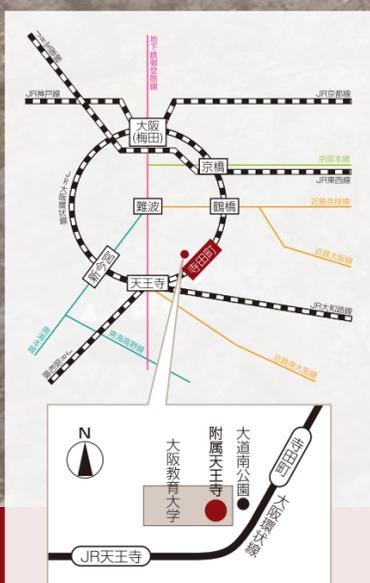


## 附高校歌

作詞／稲葉洋一  
作曲／塩見直子

- 一、生駒山 はるかにのぞみ  
希望の大空 雲はかがやく  
高らかな 理想を抱き  
いま青春の 夢を語ろう  
誇りある 自由と規律  
伝えゆく 叡智の学園を  
いざ君と共に築こう  
わが附高 附高天王寺
- 二、四天王寺 鐘の音きよく  
難波の都 歴史はぐくむ  
いにしへの 湊を訪ね  
いま新しき 光燈そう  
はてしなき 学問の思索  
究めゆく 真理の航路を  
いざ君と共に進もう  
わが附高 附高天王寺

Tennoji High School  
Attached to OKU



JR大阪環状線寺田町駅  
南出口西へ50m

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88  
TEL:06-6775-6047 FAX:06-6771-5151  
<https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/tennoji-h/>



大阪教育大学  
附属高等学校天王寺校舎

# 自主・自由・自立の精神と実践の力を持つ人材の育成 *Tennoji High School Attached to OKU*

## 教育目標

本校は「自主・自由・自立」を尊重する基本精神のもと、次の3つを教育目標として掲げ、これからの世界を担う生徒を育てています。

- 豊かな教養を身につけ、深く思考する力を育てる。
- たくましい心身をつくり、確かに実行する力を育てる。
- 魅力ある個性をのばし、しなやかな感性を育てる。

## 本校の歴史

本校は昭和31年4月1日に、大阪学芸大学の附属高等学校として設立されました。当初1学年2クラスで始まりましたが、昭和37年に各学年3クラス、昭和42年には大学名の変更により大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎に名称変更、さらに平成16年の国立大学法人化に伴い、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎となって現在に至っています。

本校は創立以来、生徒の自主性や主体性を尊重する校風のもと、知的好奇心を育てながら幅広く学問の基礎を学ぶ場として、また生徒同士、教師と生徒が互いを信頼しあいがら成長していく場として発展してきました。多くの個性的な卒業生が、社会のさまざまな場面で活躍しています。



学びのもり

## ごあいさつ

本校は、大阪教育大学の附属高校として、長年にわたり理論的・実践的な教育研究を継続して行成しています。日常の学習活動においては、基礎・基本に重点を置いた中身の濃い授業を縦系と横系とする充実した教育課程を編成しています。本校は、「試験監督のない学校」に象徴されるように自己責任に裏打ちされた自由な校風が特色です。また生徒の主体的活動としてクラブ活動だけでなく、附実習、体育大会や2日間歩き通す百軒徒歩など年間を通して多彩な活動を通して、自主自立の精神を学んでいます。

アインシュタインは「いかなる問題も、それが発生したのと同じ」という言葉を残しています。現在の私達の社会が抱えている様々な問題、例えば、国際紛争、貧困問題、地域格差、環境破壊、気候変動、生命倫理、シンギュラリティ、などはまさにこれまでの方法では解決し得ない難題です。これらに立ち向かうために、これからの社会を担う人々には、自律的に学び、多様な人々と協働し、新たな次元での解決の糸口を導き出していく学習者＝リーダーとしての資質・能力が求められています。そして本学は、過去も現在も、そのような人材を数多く世に送り出してきました。その歴史と伝統に連なり、未来の社会で活躍しようとする高い志と知への情熱を持った皆さんの入学を期待しています。

実践的な教育研究を継続して行成しています。日常の学習活動においては、基礎・基本に重点を置いた中身の濃い授業を縦系と横系とする充実した教育課程を編成しています。本校は、「試験監督のない学校」に象徴されるように自己責任に裏打ちされた自由な校風が特色です。また生徒の主体的活動としてクラブ活動だけでなく、附実習、体育大会や2日間歩き通す百軒徒歩など年間を通して多彩な活動を通して、自主自立の精神を学んでいます。

じ次元で解決することはできな



大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 校舎主任 手取 義宏

## 本校の特色

### 1. 大学の附属学校として

本校は大阪教育大学に附属する高等学校として次のような使命を担っています。  
 〈研究学校〉大学と一体となって教育の理論および現場の教育の実践に関する研究を行います。  
 〈実証学校〉教育研究の結果、到達した理論を実験・実施し、広く教育界の参考に供します。  
 〈実習学校〉大阪教育大学を中心とした学生の、教育実習の場となります。  
 〈現職教育学校〉大阪府立諸学校との人事交流等を通して、現職教員の再教育の一端を担います。

### 2. 学習指導

学習の基本は毎日の授業です。本校では専門性の高い教員が、創意工夫した授業を展開しています。実物に触れることを重視し、本物体験を積み重ねることで、実地と結びついた高い学力が育ちます。小規模校であることの特色を生かし、生徒の個性を尊重した指導を心がけています。

### 3. 特別活動・自治会活動

実践に結びつく力を育てるには、多様な場面での活動経験が必要です。生徒の主体的活動である自治会を中心として、行事などの特別活動に取り組むことで、授業で身につけた力を実際に使えるものへと高めめます。

## 科学のもり

本校は平成21年度から、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、第三期では、「国際的に協働する文理融合型学習者の育成を核とした、学習者も参画するカリキュラムマネジメントの実践とその普及」をテーマに開発研究に取り組んでいきます。これまでの成果を踏まえ、学校独自の科目および海外研修を有機的に接続させた「科学のもり」プログラムを設置しています。

1年生	2年生	3年生
ブルーフⅠ	ブルーフⅡ または 総合ブルーフ	アドバンスド・ブルーフ
ブルーフⅡ	科学英語	ブルーフⅢ
	アジアスタディー (海外研修・タイ)	生命論
		環境論
		サイエンスアドベンチャー (海外研修・アメリカ)

### 「科学のもり」プログラム

海外研修としては、姉妹校であるタイの Princess Chulabhorn Science High Schools Phatum Thani (PCHSH) と科学を通じた国際交流を行う「アジアスタディー」や、同じく姉妹校であるアメリカの Arkansas School for Mathematics, Sciences, and the Arts (ASMSA) と交流する「サイエンスアドベンチャー」を実施しています。姉妹校と本校、互いの学校を訪れる形で、ホームステイ等も通じて交流を深めています。また令和6年度からは、人文・社会科学系のアメリカ研修や、ASMSAへの短期留学も実施することになっています。

このような授業・海外研修以外に、さまざまな分野の専門家を講師に招く講演会や、各種研究機関を訪問し実習や専門家の講義を受ける宿泊研修等を企画、実施しています。また、自分たちの研究成果を生徒研究発表会や各種学会、交流会等で発表し、評価を受けています。

- 「科学のもり」プログラムを通じて、
- ① 能力的にも人間的にも魅力のある科学者・技術者を育成する
  - ② 基礎・基本の重視とさまざまな教科での取り組みにより、幅広い知識と科学の基本を育てる
  - ③ 「科学への夢」「科学を楽しむ心」と生徒の個性と能力を伸ばすことを目指す



環境論



つくば研修 (KEK)



西はりま研修

# はてしなき学問の思索 究めゆく真理の航路を いざ君と共に進もう

Tennoji High School  
Attached to OKU

## 教育課程

教育課程表 (令和8年度入学 71期生(予定))

		◆1学年/29~30単位		◆2学年/29~30単位		◆3学年/24~32単位		合計単位数 / 82~92単位
国語	必修	現代の国語 言語文化	2 2	文学国語 古典探究	2 2	文学国語 古典探究	2 2	12
地理 歴史	必修	地理総合 歴史総合	1 1	地理総合 歴史総合	1 1			4
	選択					地理探究 日本史探究 世界史探究 (2教科まで)	3 3 3	(0,3,6)
公民	必修	公共	2					2
	選択					倫理	3	(0,3)
数学	必修	数学Ⅰ 数学A	2 2	数学Ⅱ 数学B	3 2			9
	選択					数学Ⅲ* 数学C 数学発展* (*の同時選択不可)	4 2 2	(0,2,4,6)
理科	必修	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	1 1 1 1	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	1 1 1 1			8
	選択					物理 化学 生物 地学 (2科目まで)	4 4 4 4	(0,4,8)
保体	必修	体育 保健	3 1	体育 保健	3 1	体育	2	10
	選択					体育	2	(0,2)
芸術	必修	芸術Ⅰ (音楽・美術・書道から1科目)	2	芸術Ⅱ (音楽・美術・書道から1科目)	1			3
	選択							
外国語	必修	英語コミュニケーションⅠ 論理・表現Ⅰ	2 2	英語コミュニケーションⅡ 論理・表現Ⅱ	4 2	英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅲ	3 2	15
	選択					時事英語* 異文化理解* (*の同時選択不可)	2 2	(0,2)
家庭 情報	必修			家庭基礎	2			2
	必修	情報Ⅰ	2					2
科学の もり	必修	ブルーフⅠ	1			アドバンスブルーフⅠ	1	2
	選択	ブルーフⅡ	1	ブルーフⅡ* 総合ブルーフ* 科学英語 (*のどちらかを選択必須)	1 1 1	ブルーフⅢ 生命論 環境論	1 2 2	(1~8)
H.R.	必修		1		1		1	3

(注1) 数字は単位数を示します。  
 (注2) 選択科目の( )内は選択可能な単位数を示します。  
 (注3) 芸術は、音楽・美術・書道から選択します。  
 (注4) 1年次に「ブルーフⅡ」を履修した生徒のみ、継続して2年次も「ブルーフⅡ」を選択することができます。継続しての選択を希望しなかった生徒は「総合ブルーフ」を履修します。  
 (注5) 「科学英語」は、2年次に「ブルーフⅡ」を履修した場合に、必ず履修します。  
 (注6) 3学年では、地歴・公民から、必ず1科目以上履修します。最大2科目です。  
 (注7) 合計単位数は、ホームルームの時間数を含まません。

## 授業の特色

### 1. 通常の教科科目

特定の教科に偏ることなく、すべての教科科目を幅広く学習します。  
 基礎基本を大切にしながら、各教科分野の本質、学習や学問の本質に迫る内容を目指し、学ぶ喜びと楽しさを実感できる授業を目指しています。

### 2. 科学のもり

1年生では、全員が「ブルーフⅠ」を履修します。2年生以降の探究的な学習に必要な知識と技能を身につけ、課題解決のための基本的な力を養います。希望者は「ブルーフⅡ」を選択し、主に科学的・理数的な分野の課題研究に取り組みます。2年生も含めた研究チームを組み、仮説や実験計画の設定、実験と考察、発表活動に取り組み実践的に学びます。

2年生では、「ブルーフⅡ」(継続)か「総合ブルーフ」のどちらかを選択し、各自の興味・関心に基づいてテーマを設定して課題研究に取り組み、主体的な探究の力を伸ばします。また、「ブルーフⅡ」を継続して選択した生徒は「科学英語」も履修し、自分の研究内容を英語で表現することを学びます。

3年生では、全員が「アドバンス・ブルーフ」を履修します。2年生で「ブルーフⅡ」を選択した生徒と「総合ブルーフ」を選択した生徒が協働し、文理融合的な視点を重視した課題研究に取り組みます。希望者は「ブルーフⅢ」を選択し、主に科学的・理数的な分野の課題研究に取り組んだり、企業や大学などで実際に行われている研究活動について学んだりします。「生命論」や「環境論」では、生命や医療、環境に関わる題材を通して現代的な課題に対する意見を形成し、その解決のための主体的活動につながる力を育てることを目指します。

### 3. 選択科目・学校設定科目・特別講座

3年生では、自分の興味や関心に沿って学べるように、多くの選択科目と学校設定科目を設けています。教科の学習内容を深め、主体的に学習する能力を育成します。

また放課後等に、通常の授業で扱うよりも高度な内容の学習に取り組む補充講座、課題研究や入試対策のための講座等も実施しています。これらには希望する生徒が参加します。

## 「ホンモノ」に触れる

本校では、たくさんの「ホンモノ」に触れ、じかに感じる経験をするのが、直観や判断の力、知的センスを伸ばすのに役立つと考えています。授業以外に各種の行事、体験活動やフィールドワークの場で本物に触れることで、心と体を鍛え、育てます。

【一例】・体育大会やマラソン大会は、多くの学校で行われている「運動会」ではなく、本格的な陸上競技場を使用して行う「競技会、記録会」です。  
 ・遠足は本格的な登山を中心とした、「歩く」行事です。  
 ・文案、能、古典落語といった日本の伝統芸能を、3年間でひと通り鑑賞します。美術館・博物館の展示も見学します。  
 ・一流の研究者等を招いて講演会を開催します。



体育大会(ヤンマーフィールド長居)



サイエンスアドベンチャー アメリカ研修



地学野外実習(貝塚市蓼原)



高3生物授業

生命論 大久野島毒ガス工場跡を見学

## 研修旅行

学校から遠く離れた地域を訪れ、非日常ともいえる北海道の壮大な自然や風景に触れ、当地の風土や生物、現地の方々の暮らしを通して、自らや社会について見つめ直す契機とする修学旅行プログラムです。行動範囲が広く、自由度の高い北海道という地の特性を活かし、生徒が主体的に活動計画を策定し、実践していく力を身につけます。



## 主な年間行事

- 4月 入学式  
一斉検診  
スポーツテスト  
サイエンスアドベンチャー
- 5月 討論合宿(1年)  
遠足
- 6月 体育大会  
音楽祭  
教育実習  
芸術鑑賞
- 7月 学期考査  
個人懇談
- 8月 クラブ合宿  
宿泊研修
- 9月 附高祭  
教育実習
- 10月 地学野外実習  
特別時間割期間  
遠足  
博物館見学(2年)  
姉妹校来日(アメリカ)  
研修旅行(2年)
- 12月 学期考査  
個人懇談  
姉妹校来日(タイ)
- 1月 アジアスタディー
- 2月 マラソン大会  
入学試験  
卒業式
- 3月 学期考査  
長距離徒歩

## 「すべての生徒に幅広い教養を」の理念に基づいたカリキュラム編成

本校では、2年生の終わりまで全生徒が同じ教育課程の授業を受けます。理系・文系といったクラス分けはありません。3年生では選択科目が人によって異なりますが、ホームルームクラスはそれぞれ関係ありません。高校で学ぶ事柄は、全ての人が教養として身につけなければならないという理念のもと、本当の意味で基本を固め

ることを重視しています。このことが、生涯学び続けるための基礎を作り、どんな分野・場面にも対応できる柔軟性・適応力を育てることにつながると考えています。その上でさらに各自の個性を伸ばし、最先端の探究活動に進めるようサポートします。

# 誇りある自由と規律 伝えゆく叡智の学園を いざ君と共に築こう

Tennoji High School  
Attached to OKU

## 生徒指導

本校では、生徒の自主性・主体性を尊重しながら、自主・自立の精神を育むことを目指しています。

教員は生徒との信頼関係を基礎に、生徒自らが学校生活における自分たちのあり方を考え、教員との協議も踏まえながら自分たちで決定し、活動するようにサポートします。その中心となるのが「附高自治会」です。

各種の行事だけでなく、生徒の主体的活動はすべて、自治会を中心として組織されています。学校生活を豊かで充実したものにするために、自治会活動は極めて重要です。

### 三大自治会行事

#### ○附高祭 — 創造の喜び

舞台企画、模擬店企画など多くの企画を統合した、総合文化祭です。クラスや各種団体が一つになり、数日間にわたって行われます。

#### ○音楽祭 — クラスの一体感

選曲、編曲、練習を全て自主的にやり、クラスごとに合唱を競い合う行事です。クラスの一体感を味わえる、3年生にとっては最後の行事です。

#### ○百軒徒歩 — 新しい自分の発見

山の辺の道、飛鳥など、歴史的な街道を含むコースを30時間近く歩き続ける伝統行事です。自然の中の道を、また歴史や文化に触れながら一昼夜歩くことを通して、自分自身を見つめ直し、友情や感謝の心を感じ取ります。

### クラブ活動

本校ではクラブも、附高自治会の管理運営のもとにある、自主的組織です。その存続、新設、予算なども自治会の規定に従って審議、決定されます。

多くの生徒が参加し、中身の濃い活動を行っています。全国表彰を何度も受けた文化系クラブもあります。

#### 体育系クラブ

陸上競技  
男子バスケ  
女子バスケ  
男子バレー  
女子バレー  
男子テニス  
女子テニス  
ワンダーフォーゲル  
硬式野球  
サッカー  
卓球  
水泳  
ダンス

#### 文化系クラブ

吹奏楽  
茶道  
小倉百人一首  
クイズ研究  
ホームエデュケーション  
小倉百人一首かるた  
地学  
化学



制服



### 討論合宿で始まる附高生活

春の連休明けの5月、新入生は3泊4日の討論合宿に出かけます。本校の新入生合宿は一般的な「オリエンテーション合宿」とは異なり、内容は自己紹介やレクリエーションにとどまりません。目標はより深い、人格の陶冶にあります。

合宿の中心となるのは、全部で10時間以上におよぶ討論です。いくつかのテーマに対して真剣に意見をぶつけ合って議論することで、知っていると思っていた友人に対しての、あるいは自分自身に対する見方を変え、新しい気持ちで高校生活を始めることとなります。

討論合宿は、これから始まる自治会活動にむけての訓練だけでなく、3年間の授業の基礎ともなる大切な行事です。生徒だけの手でもここまでできるのか、いま自分たちに何ができていてこれから何が必要なのか、実感を持つことで諸活動に積極的に参加していくことを期待します。

## 進路指導

生徒一人一人がしっかりと将来の目標を持ち、そのために努力することをサポートするのが本校の進路指導の基本です。2年生の2学期には3年生での履修科目を決めますが、その時の成績だけでなく、本当にやりたいことは何か、しっかり自分を見つめながら考えさせます。目標のために何をすべきかを理解し、それに向けて最後まで努力するよう指導します。

高校での諸活動をすべておこなうことなく取り組み続けることが、目標への近道です。すべてのカリキュラムを通じて将来長く通用する力を育成し、自信を持って進路選択させることを、本校は目指しています。

### 主な進学先（令和7年度入試結果）

国立 大 学	東京	京都	大阪	神戸	公立 大 学	大阪公立	私立 大 学	慶應義塾	早稲田	青山学院	近畿	大 学 校	防衛医科大学校	海 外	University of Arkansas			
	北海道	京都工芸繊維	和歌山	奈良教育		徳島		京都府立	関西学院	同志社	立命館		大阪医科薬科		関西医科	Ecole Nationale de Marscille		
	大阪教育	横浜国立	名古屋	奈良女子		岡山		兵庫県立	奈良県立医科	和歌山県立医科	慶應義塾		早稲田		同志社	立命館	Monash University	
	東京都立	静岡県立	慶應義塾	早稲田		同志社		立命館	関西学院	大阪医科薬科	関西医科		兵庫医科		神戸薬科	龍谷	大阪工業	The University of Western Australia
	同志社女子	京都女子	京都薬科	摂南		追手門		甲南	武庫川女子									

## 卒業生からのメッセージ

### 「自分で選び、自分で進む」 67期（京都大学 薬学部）

皆さんは附高をどのような学校だと想像していますか。自由な学校、行事が盛んな学校、様々なことだと思います。私は、迷うことなく「数えきれないほどのチャンスが溢れた学校」と答えます。そんな附高の1番の魅力は、自分の選択に対する責任を実感できることです。附高に入学すると、入学前には想像できないほどの挑戦の機会があることを実感します。その数だけ、やるかやらないかの選択を迫られます。選択の数だけ後悔することもあります。失敗もあります。しかし、私の附高生活を振り返ると、

そのような時にはいつも「自分でした選択だから」というただ1つの理由のおかげで何事も最後まであきらめずにやり切ることができたのをよく覚えています。私は、選択と挑戦の機会がたくさんあって、困った時には助けてくれる人がたくさんいる附高だったからこそ、かけがえのない3年間を過ごすことができたと思っています。附高を卒業した今、考えるのは「この先附高生の時のように何かに全力で挑戦できるのだろうか」ということです。挑戦できる環境と失敗に対して寛容な空気のどちらもあがるのは附高の唯一無二の特性だと思います。皆さんもぜひ附高に入学したら、たくさんのことに挑戦して、失敗して、悩んで、思い出に残る3年間を過ごしていただけたらと思います。

### 「個性が尊重される高校」 67期（東京大学 文科一類）

卒業した後を感じるこの高校の最大の魅力は、生徒一人一人の個性が先生や同級生に尊重されることです。僕の周りでも多くの友人がSSHや留学、部活動などに取り組んでいましたが、そのような人はリスペクトされ、そのことがまた他の人々が何かに打ち込む動機となるという好循環が生まれていました。ただ高校生の誰もが自分が打ち込めるものを見つけられるわけではないと思います。実際に自分がそうで、特に何かを極めるというわけではなく、普通に過ごしていると高校生活が終わってしまっていました。そういう自分でもこの学校に居場所を見つけ、楽しく過ごせていたのは、この学校の懐の

深さによってだと思っています。あらゆる人の在り方が尊重され、その人本来の良さが発揮される高校が、この高校だと言えます。また、この高校の、生徒に幅広い教養がつくように組まれたカリキュラムも魅力的です。大学受験の存在を嫌でも意識せざるを得ない高校生活において高校生は受験に必要のないことを切り捨てがちだと思います。しかしこの学校に入ったことで文系だった僕も必修で理科を学び、ブルーでまた授業とは違った体験ができました。大学に入って感じるのは学問に文理の壁は明確にはないということ、理科の知識があると学習がスムーズに進む場面は多々あります。そのような時にこの高校で幅広い知識を身につけられて本当によかったなと思います。

### 「自ら挑戦する大切さ」 67期（University of Arkansas 専攻：International and Global Studies）

皆さんは高校生活でどのようなことを楽しみにしていますか。附高では附高祭や百軒徒歩など学校行事が盛んで、充実した日々を送ることが出来ます。しかし、それだけで満足するのではなく、自分からチャンスを掴みにいくことで、より深い学びや成長につながるかと私は思います。私が挑戦してよかったと感じていることの一つはSSH（スーパーサイエンスハイスクール）での活動です。高校1年生のとき、まだ文理も決めていませんでしたが、何かに挑戦したいと思い参加を決意しました。先輩と一緒に研究を進め、実験方法や発表資料の作り方を一から学びました。3年間の活動を通し

て、論理的思考力やプレゼンテーション力、コミュニケーション力などが身についたと感じています。もう一つは海外交流です。姉妹校から来た生徒をホームステイで受け入れたり、自分がタイやアメリカを訪れたり、国を越えた交流を経験しました。他言語でのやりとりや、日本文化を伝える難しさ・楽しさを学ぶ貴重な機会でした。アメリカ研修で訪れたUniversity of Arkansasに進学を決めたのも、この経験がきっかけです。附高には成長の機会が本当にたくさんあります。自ら一歩踏み出すことで、もっと広い世界に出会えるはずです。ぜひ、多くのことに挑戦して、後悔のない高校生活を送ってください。